

2023年 新政クラブ 視察報告

【視察項目】 白浜町
IT 企業の誘致について

【報告者】 鈴木ひとみ

【訪問日時】 令和5年11月6日

【訪問場所】 白浜町役場

【対応者】

(敬称略)

総務課企画制作係 笠松 大希

【視察目的】

白浜町では、IT 企業誘致を先進的に進めており、ワーケーションの誘致も積極的に行っている。館山市でもサテライトオフィス、ワーケーションの誘致を行っているが、なかなか成果が上がっていないのが現状である。

先進地の誘致に至る過程、現状、効果を学ぶ。

【白浜町の概要（視察地の概要）】

人口約 20,225 人

面積 200.98 km²

関西有数の観光リゾートとして発展し、コロナ前の年間観光客数は 300 万人に達していた。コロナ後は以前に比べて少なくなった。

人口は毎年減少傾向にある。

【視察内容】

白浜町は IT 関連企業の誘致を平成 16 年から

積極的に行っている。背景には、町に高校・大



アドベンチャーワールドはパンダがいることで人気を集めている。



オーストラリアから砂を運び入れた
白い砂浜。結婚式の写真撮影が行われ
ていた

学がなく、若者が流出し、高齢化、人口減少
が進んでいることがある。若者を戻すために、
地元で働く場を作ることを目的として企業誘致
を進めてきた。また、夏の海水浴を中心とした
観光が主産業なので、季節により、繁忙期と閑
散期の変動が激しいことも課題であった。

そのため、人口を増やし、通年で来訪者を増やす必要があった。

白浜町には、和歌山県唯一の空港があり、空港から車で10分圏内に主な観光名所が集まっている。東京から1時間で来ることができるリゾートをアピールしている。

平成16年には市内の保養所を改装した第1ITビジネスオフィスをオープンさせ、2社が入居した。その後、2社とも退出したこともあったが、平成29年にセールスフォースドットコムが本社を白浜町に移してから、利用が格段に増え、第2ITオフィス、民営の2か所が開設した。コロナ前、令和元年はこれらのオフィスで104社、910名がワーケーションを行っていたが、フリーで市内の他の施設を利用している人数まではカウントできない。

ワーケーションだけでなく、本社からの社員研修としての利用も増えている。

サテライトオフィスを持った IT 企業は積極的に町に地域貢献してくれる。観光だけでなく、地域住民との関係性を作っていくことが重要である。

この取り組みの背景には、和歌山県がワーケーションを積極的に推し進めていることがある。県から町に企業を紹介されるので、町からセールスに行くことはない。

【所感】

白浜町が IT 企業誘致に至った人口減少、若者の流出といった課題は館山市でも共通するところである。

県が IT 企業誘致に積極的にとりくんだ

ことと、空港の存在は大変大きいと思う。

東京から 1 時間をうたっているが、空港での待ち時間を考えれば、東京から館山への時間は変わらない。高速ジェット船が竹芝から通年運航し、短時間で東京と館山を結ぶことができれば、もっと便利さを強調できるだろう。

対象企業の情報を得れば、企業のトップに来町してもらい、環境の良さを肌で感じることで進出を促している。



砂浜で行われていた T シャツアート展。夜はライトアップされ、幻想的な空間になっていた。

館山市には IT 企業の保養所がある。もっと密に関係性を持ち、積極的にアプローチしていくことが必要と考える。

【視察項目】 白浜町
旅先納税 「Yanico」について

【報告者】 鈴木ひとみ

【訪問日時】 令和5年11月6日

【訪問場所】 白浜町役場

【対応者】

総務課企画制作係 笠松 大希



白良浜で開催中だった、ひらひらTシャツアート展

【視察目的】

白浜町では、旅先納税 「Yanico」を導入している。ふるさと納税による税収は、地方自治体にとって、大きな財源である。旅先納税の仕組みと効果を学ぶ

【白浜町の概要（視察地の概要）】

人口約 20,225 人

面積 200.98 km²

関西有数の観光リゾートとして発展し、コロナ前の年間観光客数は 300 万人に達していた。コロナ後は以前に比べて少なくなった。

人口は毎年減少傾向にある。

【視察内容】

白浜町は現地だけで使える e チケットを返礼品とするふるさと納税

「Yanico」を導入し、南紀白浜 e 街ギフトで、観光や仕事で訪れる人のふるさと納税を進めている。使い切って帰る場合がほとんどだが、残した場合、再度来町する動機付けになる。返礼率は 30%、10,000 円の納税で、3,000 円のチケットがもらえ、町内の 100 以上の加盟店舗で利用できる。今、市内の全店舗が加盟することを目指して働きかけている。

加盟店舗が観光客に対して、「Yanico」を説明し、納税を勧める状況を作られている。また、店側にとっても、スタンプを一つ置くだけでよいので、加盟するハードルが低くなっている。町内で利用できる店舗が多いことが、旅先納税の効果を高めている。

令和5年4月から10月の

納税額は127件3,799,000

円であった。



白良浜は、夜はライトアップされ、宿泊酌を楽しませる。

【所感】

ふるさと納税は、地方自治体にとって重要な財源であり、いかにして獲得するかはどの自治体の担当者も苦心しているところである。

旅先納税は、その土地に旅行に行くことと納税がセットになっているので、観光客の呼び込みとしても効果がある。旅行サイトでもふるさと納税を組み込んだものもあるが、旅先の納税のようにふるさと納税を取り出してスポットを当てたものを導入することで、市内の事業者もより意識し、加盟店を増やすことにもつながると考える。また、より質の良いサービスを提供し、納税を増やそうという働きかけもできるのではないだろうか。

白浜町で、店舗が観光客に納税を勧めるという事業者意識の高揚は納税を増やすというだけでなく、より満足される観光地づくりに繋がると考える。